

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

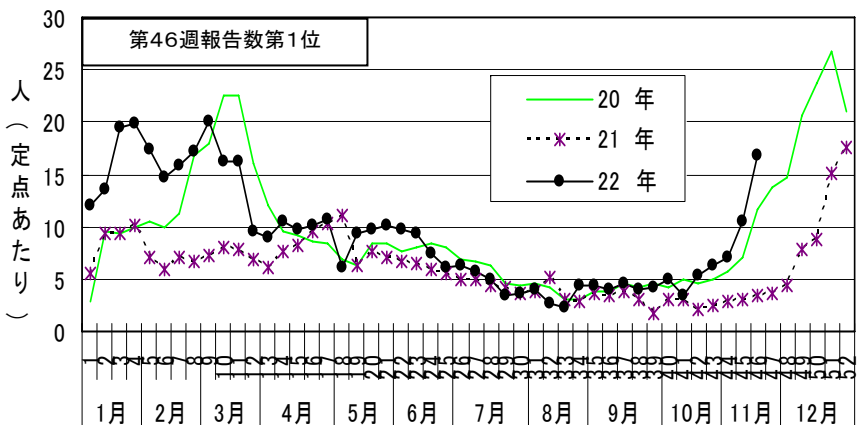


KAWASAKI CITY

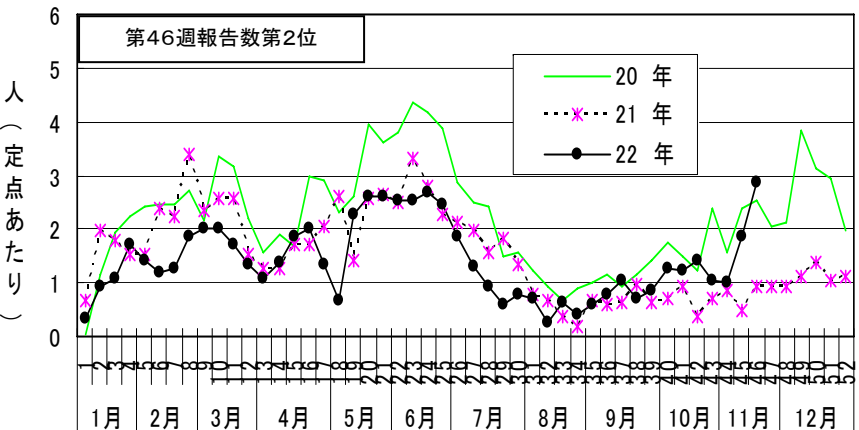
平成22年11月15日（月）～11月21日（日）〔平成22年第46週〕の感染症発生状況

第46週で報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。
 感染性胃腸炎は定点あたり16.73人と前週（10.58）より患者報告数は大きく増加しました。さらに、平成11年以降の同時期と比較すると、第44週から第46週の3週間において今年が最も多い報告数となっており、例年に比べて早い時期から患者報告数が増加していると言えます。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎も定点あたり2.88人と前週（1.88）より患者報告数は増加しました。グラフにあるとおり、2週連続で大きく報告数が増加しており、こちらも平成11年以降の同時期と比較すると、最も多い報告数となっております。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



特に乳幼児は気をつけて！！～感染性胃腸炎患者急増～

感染性胃腸炎はウイルスや細菌が原因で起こり、主に下痢や嘔吐などの症状がでます。秋から冬にかけて流行するものはほとんどウイルスによって起こり、特にこれからの時期はノロウイルスによるものが増えてきます。

川崎市市内においては、左のグラフのとおり、感染性胃腸炎の患者報告数が2週連続で大きく増加しており、今後も増加することが予測されます。さらに、右上のグラフにあるとおり、例年通りではありませんが、就学前までの0～5歳の年齢群で感染性胃腸炎患者全体の約71%を占めております。

また、右下のグラフのとおり、全国的にも乳幼児の占める割合が多くなっております。

ノロウイルスは、主に下痢やおう吐などの症状が出て、通常であれば2～3日で回復しますが、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では重篤な症状になることがありますので注意が必要です。

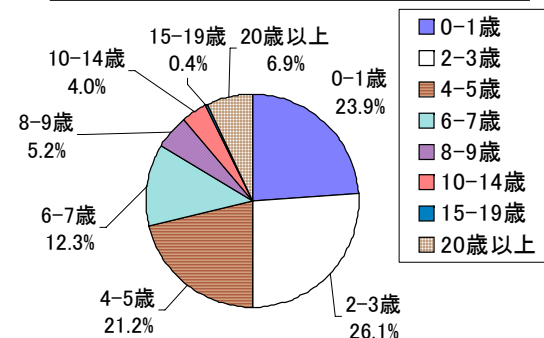
感染予防方法

手洗いが基本です。その他に、患者さんの便やおう吐物は乾燥しないうちに早めに片付け、必要に応じて家庭用塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）などで消毒してください。

かかってしまったら...

下痢やおう吐により体内の水分を多く失いますので、水分補給はこまめに行いましょう。水分を受け付けなときは、医療機関を受診するようにしましょう。特に、乳幼児や高齢者は脱水症状になりやすいので注意が必要です。

川崎市感染性胃腸炎第46週年齢別割合



全国感染性胃腸炎第45週年齢別割合

